

(別紙4-1)

外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	令和7年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	R6.2月度運営推進会議にて
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その名が示すように「ひだまりの家」は一日中陽の光を受けるロケーションにあります。室蘭港、測量山、白鳥大橋、工場群を一望し、風光明媚な場所に位置しています。2005年(平成17年)開設時より「アットホームな生活環境」をコンセプトに、基本理念にある「穏やかで安らぎのあるそして笑いのある暮らしの場」、を目標に入居者様の介護ケアに努めております。代者者の加藤家は地元御崎町に在住して百二十数年という町内最古参で、よって町内会始め地域近隣住民との絆は深く、避難訓練、敬老の集いなどの行事・イベントには近隣住民、町内会役員らが参加し応援協力を得ています。また、町会のお祭りや文化展にはホームの入居者が参加し、”地域密着型”を実践しております。その他、近隣にある総合病院の看護学校の学生、介護福祉専門学校、介護福祉初任者研修の受講生等の「介護現場実習」の受け入れ機関として、これら生徒、受講生の学業支援に努めておりますがここ数年はコロナ禍により中断されています。開設19年を迎えて職員スタッフの定着、安定した人材確保、人材育成を目標に、スローガンである「良質な介護サービスの提供をめざして」に邁進しておいります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モットーである「良質な介護サービスの提供をめざして」を目標に、地域との繋がりが重視している。基本理念はスタッフルームなど館内に掲示し、パンフレットや名刺裏側にも印刷し、常に意識できるようにしている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの催しや町会の行事等は相互に参加し、交流を深めている。コロナ禍以降実施できていないが春の避難訓練などホームの行事には町会関係者も参加し、協力体制を構築している。		以前同様に町会行事の参加を継続してください（包括） 今後の動向次第だが、以前のような地域交流を持ってもらいたい（行政） 文化祭の作品提供してもらっている。入居者との交流をもう少ししたい（町会）	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回の運営推進会議を開催している。地域の代表・家族の代表・市職員・地域包括支援センター母恋、グループホームのスタッフが出席、開催することができた。		毎回テーマを持って議論したり、地域の意見を集約できていますので、継続して取り組んでください（包括） 感染対策により外部会場で会議行っているが、通信の写真により様子を垣間見れるためいいと思う（行政）	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内13グループホーム事業所が加盟する「室蘭市グループホーム連絡会」を通じて、入退去状況、議事録の送付、各種研修会の報告、行政との連携等に努めている。昨年は総会2回参加している。		会館で実施しているえみなメイトで施設について講演していた（町会）	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束なのか基準を明確にし、スタッフが理解できるよう文書にして掲示し、また閲覧できるようにしている。ミーティングでも議案にあげている。また各種研修を実施している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には毎回家族代表が参加おり、その際意見交換を行っている。入口には苦情相談箱を設置している。面会等でご家族が来られた際は遠慮なく相談していただけるようコミュニケーションを図っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回「全体会議」又は「ユニットミーティング」を開き職員スタッフの意見や提案、改善点など話し合っている。また必要に応じて「個別面談」を起さないコミュニケーションを図り、職員スタッフの意見を聞き入れるよう機会を作っている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴や家族構成等をスタッフ間で共有できるように個人記録に綴っている。面会に来られたご家族から入居前の生活を聞き取りし、可能な限り今まで生活していた場所との関係が切れないように努めている。		以前と同様に家族との面会や状況をお話する機会を続けてください。（包括） 入居者が安心できる環境でよい（町会）	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは日々の言動から入居者の思いを察知できるよう努めている。それをくみ取って介助に反映するよう、スタッフ間で「連絡ノート」等によって連携を図っている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時のモニタリングでご家族からの意見や要望を聞き、また居宅支援等からの情報の提供を得る。こうしたことより状態の把握に努め、スタッフ間で情報を共有し日々介護に実践している。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の通院病院、かかりつけ医院がある場合には、スタッフが同行し引き続き受診している。入居者に体調不良が起きた場合協力医に往診を依頼している。	予防接種や往診の体制も構築できていますので、重度化予防の取り組みを続けてください。(包括)
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、入居時の契約の際、同意書をご家族と取り交わしている。また、その際には「ターミナルケアに関するマニュアル」を添付して説明している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームには自動火災探知機・スプリンクラー装置・自動通報装置などの設備されている。保守管理業者が定期的に点検、している。毎年春に近隣住民の参加で避難訓練を行い災害対策に取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳については事あることの伝達している。事例として命令口調、子ども扱いなどスタッフに徹底している。排泄に関してはプライバシーを十分配慮して介助するよう指導している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食サービスを利用しメニューが画一的にならないようにしている。食事時間が楽しいよう工夫しコミュニケーションを大切にしている。配膳や後片付けなど無理ない程度で手伝ってもらう。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は尊厳にかかわることでありひとり一人のパターン把握に努めている。おむつを全面的に否定するのではなく、場面によってオムツの使い分けを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回を目安に入浴を促している。入居者にとって入浴は楽しみの一つであり、入浴中コミュニケーションをとりながら会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの裏の敷地に短い遊歩道が設置されているので、天気の良い日は外に出て陽を浴びている。また天気がよい日のスタッフ構成を見ながら郊外にドライブに行き、ソフトクリームなど食べて来る。	暖かくなったら外出行事等ができるとうい(包括)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、階段踊り場、壁面、玄関など写真やパネル、季節感を感じさせる飾り付け、装飾など工夫を凝らしている認知症のためトイレなど独特の目印をつけ混乱を防いだ工夫に努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでご自宅での使っていたものを持ってきてもらっている。身近なものを側に置くこと、使用することでく自宅にいる感覚をもってもらえるよう工夫している。	